

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)	氏名	胡 揚																								
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当																										
<p>論 文 題 目</p> <p>自由散策時の経路選択における街路パターンの影響に関する研究 -個人特性の視点からみた分析-</p> <p>(A Study on the Influence of Streets Patterns on Course Selection in Strolling -An Analysis of Personal Feature-)</p>																											
<p>論文審査担当者</p> <table border="0"> <tr> <td>主 査</td> <td>教 授</td> <td>田中 貴宏</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>中村 尚弘</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>岡河 貢</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>千代 章一郎</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>角倉 英明</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>金田一 清香</td> <td>印</td> </tr> </table>				主 査	教 授	田中 貴宏	印	審査委員	教 授	中村 尚弘	印	審査委員	准教授	岡河 貢	印	審査委員	准教授	千代 章一郎	印	審査委員	准教授	角倉 英明	印	審査委員	准教授	金田一 清香	印
主 査	教 授	田中 貴宏	印																								
審査委員	教 授	中村 尚弘	印																								
審査委員	准教授	岡河 貢	印																								
審査委員	准教授	千代 章一郎	印																								
審査委員	准教授	角倉 英明	印																								
審査委員	准教授	金田一 清香	印																								
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>近年、環境負荷や健康に対する人々の関心の高まりを背景に、移動手段としての「歩行」に対する社会的関心も高まりつつあり、人々が歩きたくなるような街路空間づくりが求められている。そして、そのような街路空間づくりのためには、歩行者の経路選択特性および選択要因を理解する必要がある。以上のような背景から、本研究は、まちの街路パターンに着目し、その特性を定量的に記述した上で、そこで発生する散策経路選択の特性を、個人特性の観点および方略の観点から解釈することで、街路パターンと経路選択との関係を体系的に解明したものである。論文は以下に記すとおり、6章から構成されている。</p> <p>第1章では、まず研究の目的、位置づけ、構成を示している。</p> <p>第2章では、街路パターンの類似性評価により、複数都市の街路パターンを類型化した上で、特徴の異なる都市の街路地図を対象に、被験者を用いた地図記入法による経路選択実験を行い、被験者特性によって異なる経路選択傾向を示している。</p> <p>第3章では、経路選択結果に基づいて類型化された被験者グループごとに、経路選択傾向、誘引空間の特徴をそれぞれ把握した上で、両者の関連分析を行い、各グループの経路選択に影響を及ぼす要因が異なることを示している。また、各被験者グループの行動の経路選択方略を解釈し、それと経路選択特性や選択経路の時間的変化との関連を示している。</p> <p>第4章では、経路選択の時間的変化に関する特性として、経路の「方向」、「位置分布」、「経路の複雑さ」、「始点との関係」の4つに着目し、それらの時間的変化特性が各被験者グループにより異なることを示している。</p> <p>第5章では、新たな被験者をサンプルとし、再度地図記入法による経路選択実験を行い、</p>																											

前章までの分析結果の妥当性を示している。また、同一被験者をサンプルとし、実空間における経路選択実験をあわせて行い、白地図上における散策経路選択傾向と実空間における散策経路選択傾向の類似点・相違点を示している。

第6章では、各章の内容を総括し、本研究の成果をまとめるとともに、今後の課題を示して全体の結論としている。

人々が歩きたくなるような街路空間が求められている現在の建築分野において、本研究は、そのような街路空間づくりに向けた拠り所のひとつを示すものであり、当該分野に対して新たな視点を提供し、貢献するものとなっている。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（工学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考：審査の要旨は、1,500字以内とする。